

## モニター校（11校）アンケート分析結果（概要）

昼食の現状やリニューアル後のハマ弁の利用状況などを把握し、ハマ弁の改善や今後の中学校昼食の充実を図る上で参考とするため、モニター校でアンケートを実施しその結果について横浜市立大学の柴田准教授（専門：マーケティング・消費者行動）に助言いただき分析しましたので、報告します。

また、アンケート結果の分析等を踏まえ、新モニター校で改善策を検証してまいります。

### 1 モニター校のアンケート分析結果

#### (1) 調査概要

##### ア モニター校 11校

鶴見中学校、栗田谷中学校、横浜吉田中学校、若葉台中学校、根岸中学校、大道中学校、日吉台中学校、樽町中学校、秋葉中学校、上郷中学校、中田中学校

##### イ 対象者

生徒、保護者：各学年で1クラス抽出し実施 教職員：全員

##### ウ 回収率

生徒：985/2,156名（45.6%） 保護者：599/1,660名（36.0%） 教職員：265/413名（64.2%）

#### (2) 主な分析結果

##### ア 昼食の利用実態

生徒、保護者、教職員ともに家庭弁当の利用率が高い。特に生徒・保護者は **約9割**が家庭弁当。

【生徒】家庭弁当：約91% ハマ弁：約7% コンビニ：約2%

【保護者】家庭弁当：約91% ハマ弁：約7% コンビニ：約1%

【教職員】家庭弁当：約51% コンビニ：約22% ハマ弁：約17% 業者弁当：約10%

##### イ ハマ弁の利用状況

生徒、保護者、教職員ともに「利用したことがない」と回答した割合が最も高く、生徒の学年別で見ると **学年が上がるにつれて利用中の割合が低下**している。

【1年生】利用中：約19% 過去に利用したことがある：約14% 利用したことがない：約67%

【2年生】利用中：約10% 過去に利用したことがある：約15% 利用したことがない：約75%

【3年生】利用中：約6% 過去に利用したことがある：約11% 利用したことがない：約83%

##### ウ ハマ弁の利用をやめた理由

「注文方法が面倒」「おいしくない」「家の弁当が好き」「取りに行くのが面倒」と回答した割合が高い。特に生徒、保護者は「**取りに行くのが面倒**」だと感じている。その他、生徒、保護者は「**周りが食べていないから**」との回答も一定数おり、特に保護者の回答割合が高い。

【生徒】家の弁当が好き：約22% おいしくない：約19% 取りに行くのが面倒：12%

周りが食べていないから：約7%

【保護者】おいしくない：22% 注文方法が面倒：約16% 取りに行くのが面倒：約16%

周りが食べていないから：約14%

【教職員】注文方法が面倒：約39% おいしくない：約18% 家の弁当が好き：約18%

##### エ 味の満足度等

利用中の生徒は全ての値で**平均的な評価となる3.0ポイント以上**となっている。一方で利用を止めた生徒は全ての値で平均的な評価を下回っている。

【利用中】味の満足度：3.4ポイント おかずの味つけ：3.0ポイント おかずの量：3.0ポイント

【利用をやめた】味の満足度：2.6ポイント おかずの味つけ：2.5ポイント おかずの量：2.8ポイント

## オ 当日注文

生徒の約4割、教員の約5割が利用しており ニーズは高い。また、利便性については、平均値である3.0ポイントを大きく上回っており高評価である。

【生徒】利用している：約42% 利用していない：約59% 利便性：3.6ポイント

【保護者】利用している：約34% 利用していない：約66% 利便性：3.9ポイント

【教職員】利用している：約52% 利用していない：約48% 利便性：3.4ポイント

## カ ハマ弁をどのような時に利用したいか

生徒、保護者ともに「保護者が忙しい時」に利用したいと回答している割合が最も高い。また、「好きなメニューがある日」と回答している割合が次に高く、メニューに着目していることが分かる。

【生徒】保護者が忙しい時：49% 好きなメニューの日：約27% 部活動で朝が早い日：約8%

【保護者】保護者が忙しい時：約48% 好きなメニューの日：約22%部活動で朝が早い日：約15%

## キ 自由意見欄について（回答数：生徒368件 保護者：209件 教職員108件）

生徒については、「味の改善」を求める内容が多かった。保護者、教職員については「注文方法の改善」を求める内容が多かったが、保護者の特徴として「全員でハマ弁を食べる日があると良い」との意見も多く見られたことが挙げられる。

## (3) 今後の改善に向けて

アンケートの分析結果を受けて次の項目に取り組んでいきたいと考えています。

### ア 味の満足度、おかずの味つけ、おかずの量の平均値の底上げについて

①ハマ弁の利用をやめた理由で、「おいしくない」と回答している割合が上位に来ていること、②利用状況別にみた味、おかずの量の評価では、利用をやめた方の評価が平均的な評価以下であったこと、③自由意見欄でも「味の改善」を求める意見が多かったことから、これらの数値を平均的な評価以上に底上げすることができるよう改善に取り組む必要があると考えています。

### イ 生徒が好きなメニュー、魅力あるメニューの取り入れ

ハマ弁をどのようなときに利用したいかによると、①「好きなメニューがある時」との回答も一定数あることなどから、更なるメニューの工夫が必要だと考えています。

ベ이스ターズ青星寮カレーなど生徒の興味を引くような、企業等とのコラボによる特色あるメニューを定期的に提供できるよう取組を進めます。

### ウ 受渡、回収方法の改善

生徒から、ハマ弁を利用しなくなった、利用しない理由として「取りに行くのが面倒だから」との回答が多くみられました。ハマ弁を取りに行く場所が教室から遠い学校もあることから、各フロアでの受渡・回収、教室での配膳など、効率的な受渡・回収方法をシミュレーションするとともに、喫食率の状況や昼食時間延長の検討状況等を踏まえながら、受渡・回収方法の改善に取り組みます。

### エ 広報強化、利用しやすい環境づくり等

中学校1年生のハマ弁に対する評価の方が、2年生、3年生よりも高いことから、小学校6年生に対するハマ弁の周知（ハマ弁デーの実施等）に一層力を入れていきます。

本年8月末から、就学援助等対象者へのハマ弁の支援拡充を見据え、「ハマ弁を利用しやすい雰囲気づくり」として、「ハマ弁デー」や「ハマ弁食育ウィーク」、「毎週金曜日はハマ弁の日」など、各学校で全生徒がハマ弁を食べる機会を設けることなど、支援拡充を円滑に行うために新たに立ち上げるプロジェクトを通して提案していきます。保護者の自由意見欄では、「ハマ弁を全員で食べる日があると良い」との意見が多くみられたことから、保護者の意見にも沿うものであると考えています。

なお、当日注文については、実際に生徒の約4割、教職員の約5割が使用し、利便性の評価も高いことから、早期に全校展開することは効果的であると考えています。